

R&S ZVHView 操作手順書



Rev 5

ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社



ZVHView操作手順

1. ZVHViewの起動
2. ZVHとPCの接続
3. ZVHメモリ内データの転送
4. 測定画像の操作
5. 測定データを数値データへ変換
6. クイック・ネーミング機能の設定



1.ZVHViewの起動

-ソフトウェアインストールおよび起動

ソフトウェアのインストール

ZVH購入時に付属で添付されているDCROMより、“ZVHView”をPCへインストールします。

インストールされたソフトウェアは下記に保存されます。

Cドライブ¥Program File¥Rohde-Schwarz¥ZVHView

(注、このソフトウェアのバージョンは定期的に更新されます。)





1.ZVHViewの起動

-ソフトウェアの起動

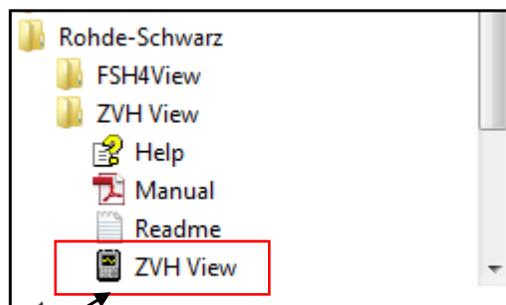
ソフトウェアの起動

ソフトウェアを立ち上げる場合は

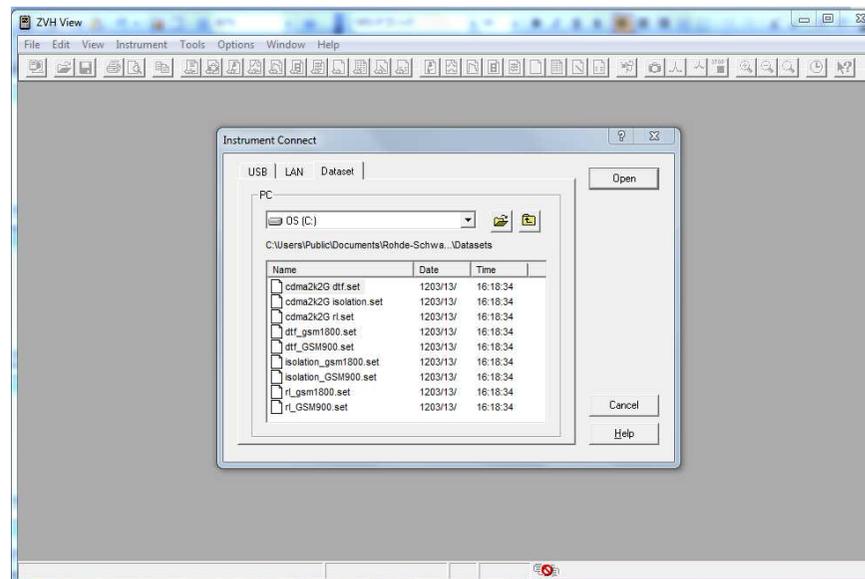
ウィンドウズ→All Program→Rohde-Schwarz→ZVHView

ZVHViewダブルクリックします。

そうするとソフトウェアが立ち上がってきます。



これをダブルクリック



ZVH VIEWの立ち上がり画面



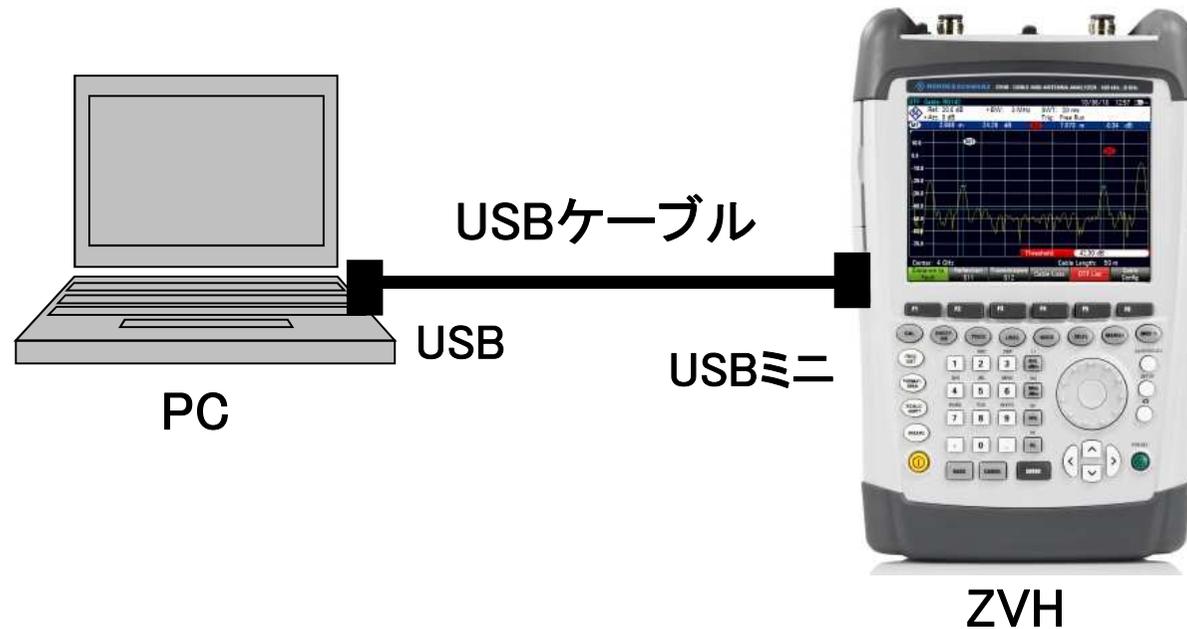
2.1 ZVHとPCの接続(USB)

-USB(ミニ)-USBケーブルの接続

ZVHとPCをUSBケーブルで接続します。

ZVH側 : USBミニコネクタ

PC側 : USBコネクタ





2.1 ZVHとPCの接続(USB)

-ZVHの設定およびZVH Viewの設定

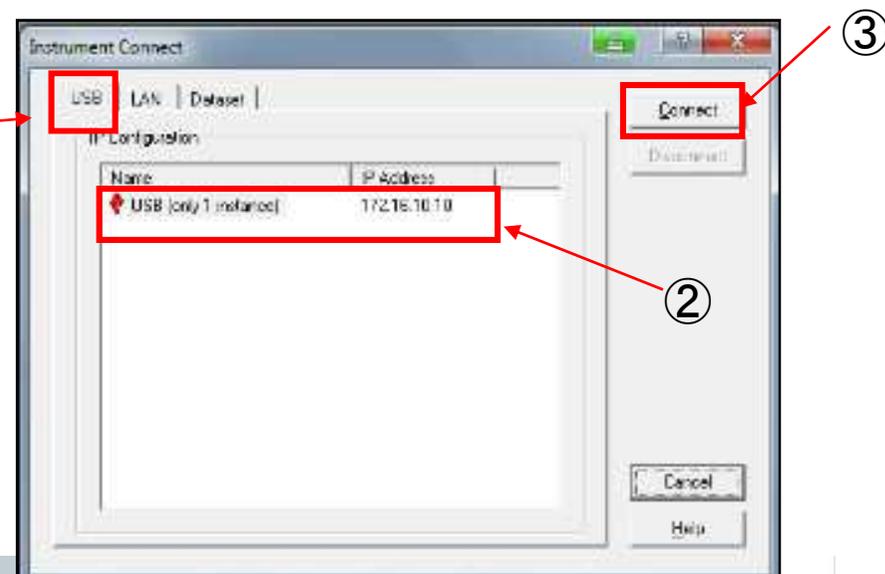
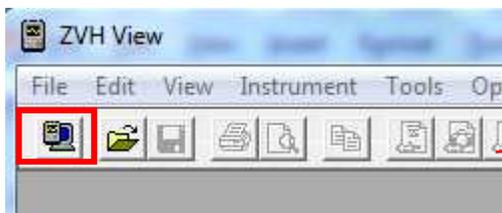
ZVHの設定

特に設定はありません！！

ZVHViewの設定

ZVH VIEWを立ち上げたときに画面内に出てきます。
もしくはZVHView画面内の  (右図参照)をクリックします。
画面内にウィンドウが立ち上がってきます。

- ①USBを選択します。
- ②“USB”のアドレスを選択します。
- ③“Connect”を押しますとZVHとPC①の接続が完了します。

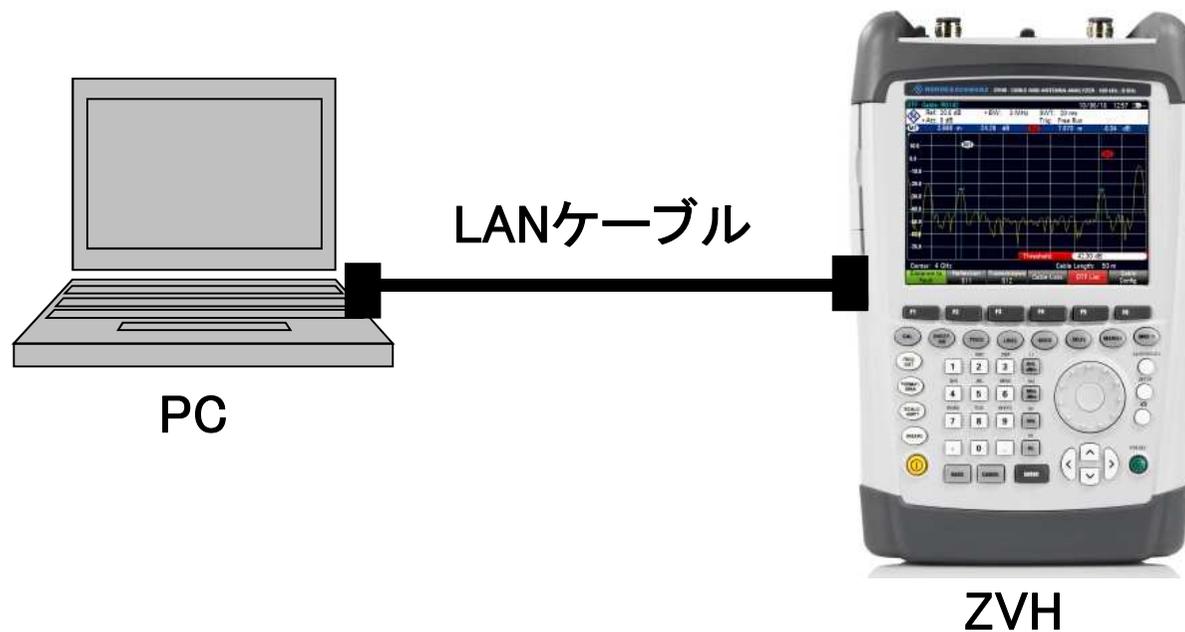




2.2 ZVHとPCの接続(LAN)

-LANケーブルの接続

ZVHとPCをLANケーブルで接続します。





2.2 ZVHとPCの接続(LAN)

-ZVHの設定



SETUP

“SETUP”キー→“F2(Instrument Setup)
画面内の“LANゲート内の設定を行います。

LANポート	
MACアドレス	00-90-b8-18-ce-d4
DHCP	オフ
IPアドレス	192.168.1.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1

DHCP	:オフ
IPアドレス	:192.168.1.10
サブネットアドレス	:255.255.255.0
ゲートウェイ	:192.168.1.1





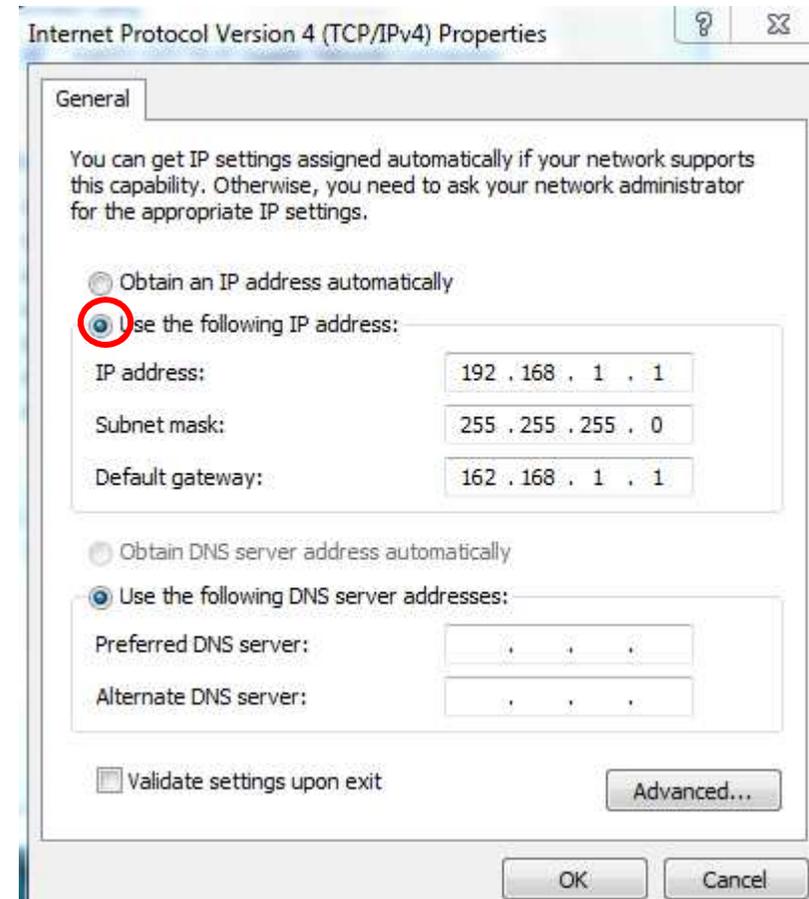
2.2 ZVHとPCの接続(LAN)

-PCの設定

PC内の“Local Area Network”
→“General”内の“Properties”→
“Networking”内の
Internet Protocol Version 4(TCP/IPv4)
を選択→“Properties”(右画面)
Use the following IP addressを選択

IPアドレス : 192.168.1.1
Subnet mask : 255.255.255.0
Default gateway : 192.168.1.1

を設定し“OK”を押す。
(注意、LAN接続が終わった時、
Obtain an IP address automaticallyに
戻して下さい。)





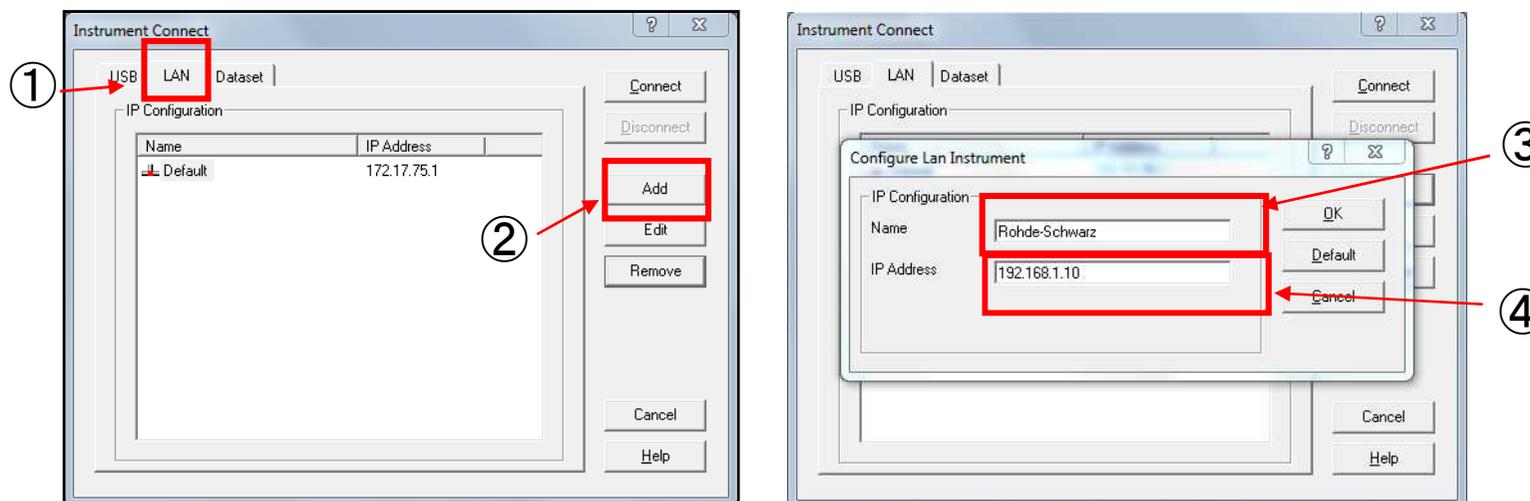
2.2 ZVHとPCの接続(LAN)

-ZVHViewの設定



ZVHViewを立ち上げたときに画面内に出てきます。
もしくはZVHView画面内の (右図参照)をクリックします。

- ① LANを選択します。
 - ② Addを押します。
 - ③ Nameをつけます。(自由に名前をつけることができます。)
 - ④ IPアドレスを設定します。(ZVHのIP: 192.168.1.10)
- “OK”を押します。

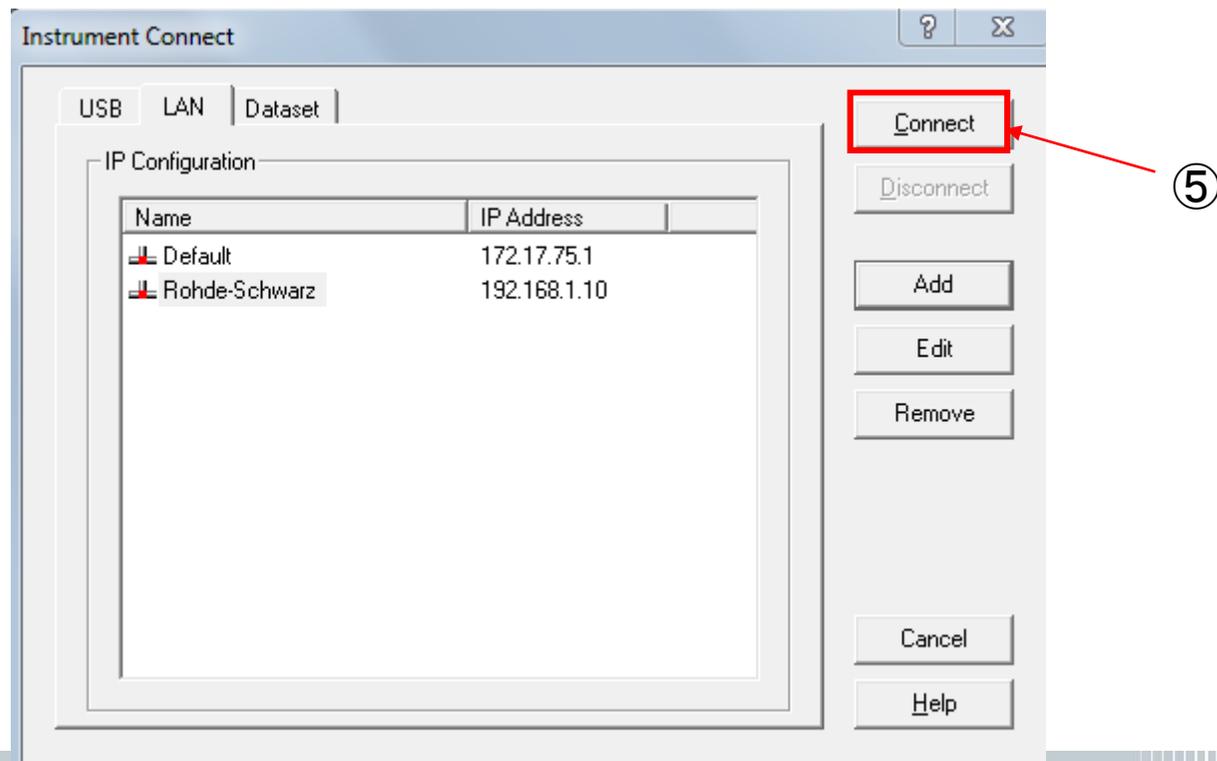




2.1 ZVHとPCの接続(LAN)

-ZVHViewの設定

- ⑤ “Connect”を押しますと、PCとZVHが接続されます。
(注意、接続に1分くらいかかります。)
続が完了すると設定画面が消えZVH内部のデータへアクセス
することができます。



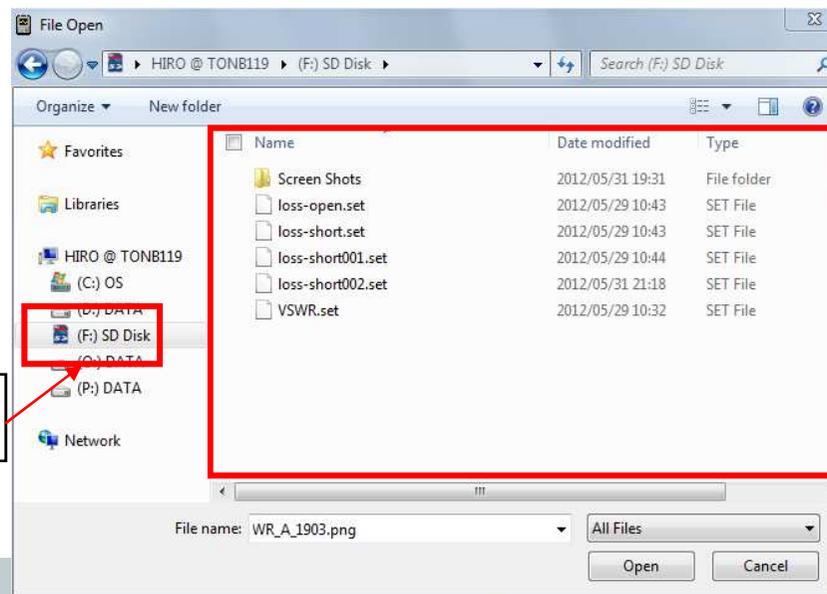
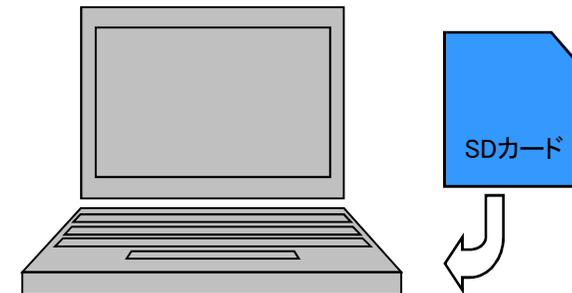


2.2 ZVHとPCの接続(SDカード)

-SDカードを使用

ZVHでSDカードに取得したデータをZVHから取り外し、PCへ接続します。

ZVH VIEW画面内のをクリックするか、“File”→“Open”→SDカードを選択すると画面内にSDカードに保存されたデータを開くことができます。



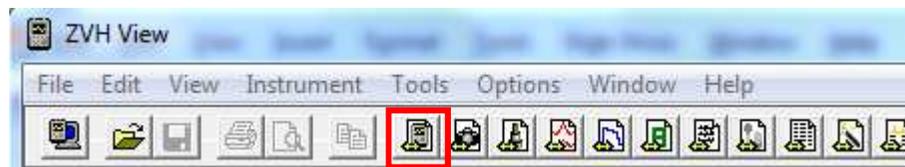
SDカードのディレクトリ

SDカード内のファイル

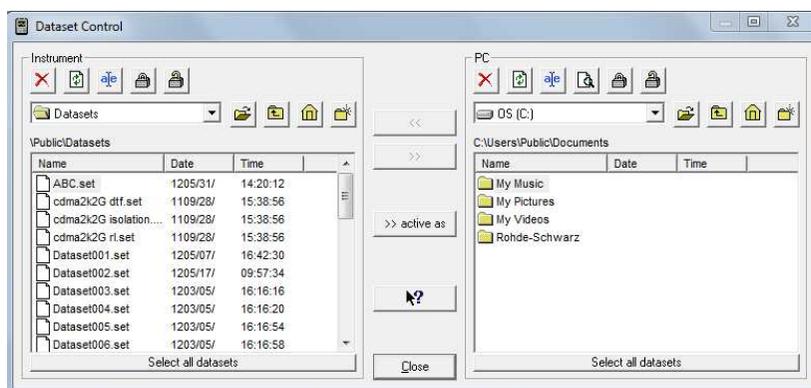
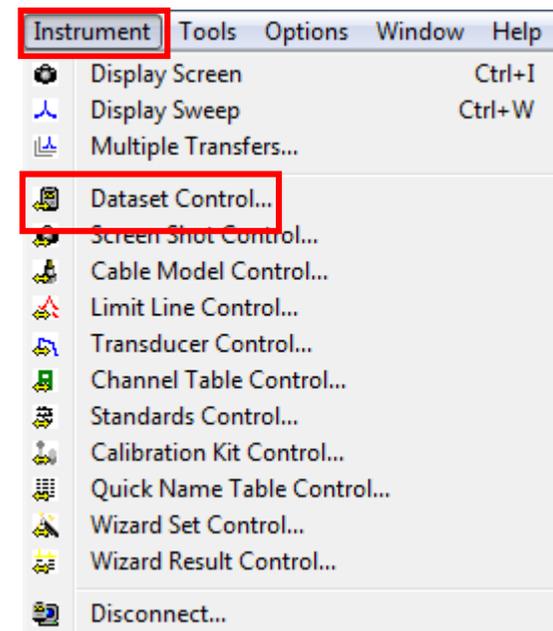


3.1 ZVHメモリ内のデータ転送

-ZVH内データをPCへ移行(Dataset(測定画面))



ZVHView画面内のをクリックするか、“Instrument”→“Dataset Control”を選択すると画面内に“Dataset control”の画面が立ち上がります。



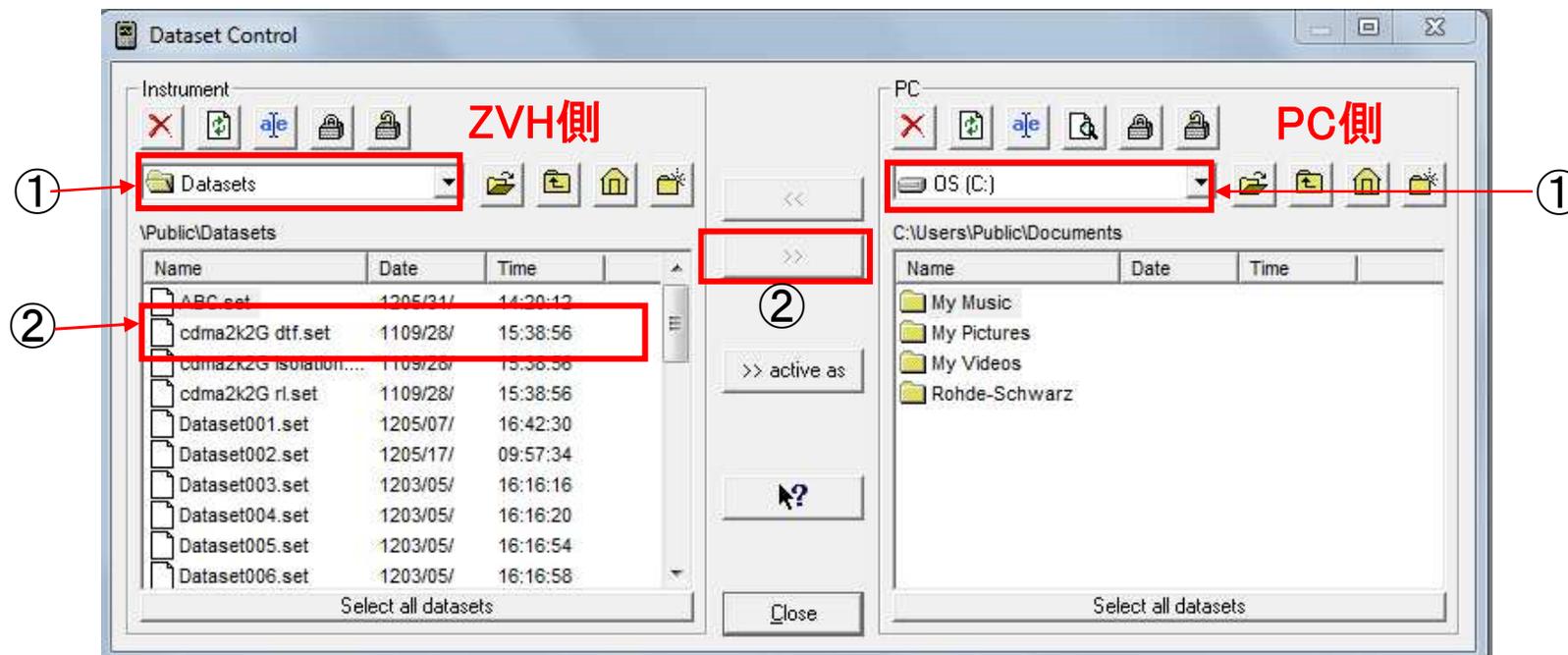
Dataset controlの画面



3.1 ZVHメモリ内のデータ転送

-ZVH内データをPCへ移行(Dataset(測定画面))

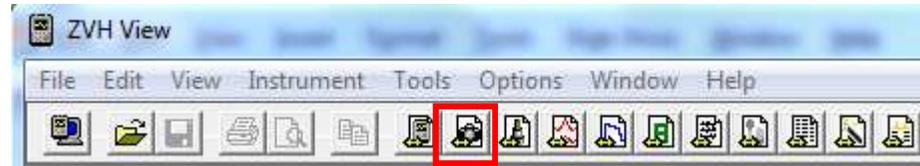
- ① ZVHメモリ内のフォルダとPCコピー先のフォルダを選択します。
- ② ZVHメモリ内のファイルを選択し“>>”を押します。
そうするとZVH内のファイルをPC内に移行することができます。



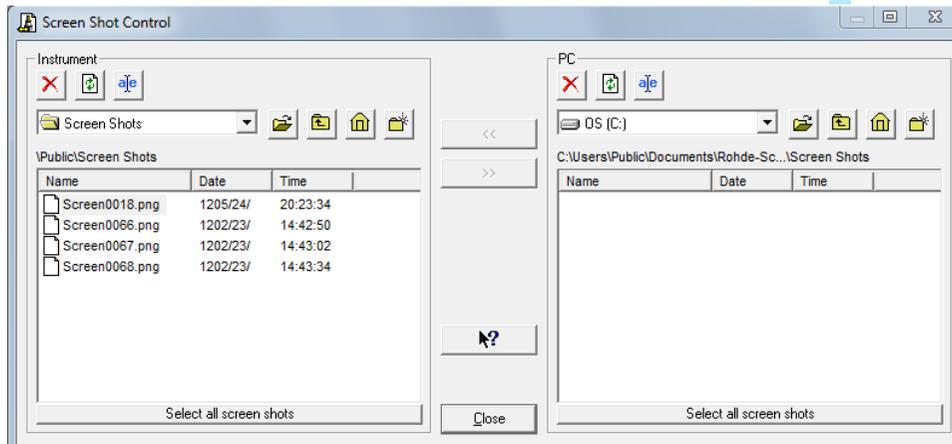


3.1 ZVHメモリ内のデータ転送

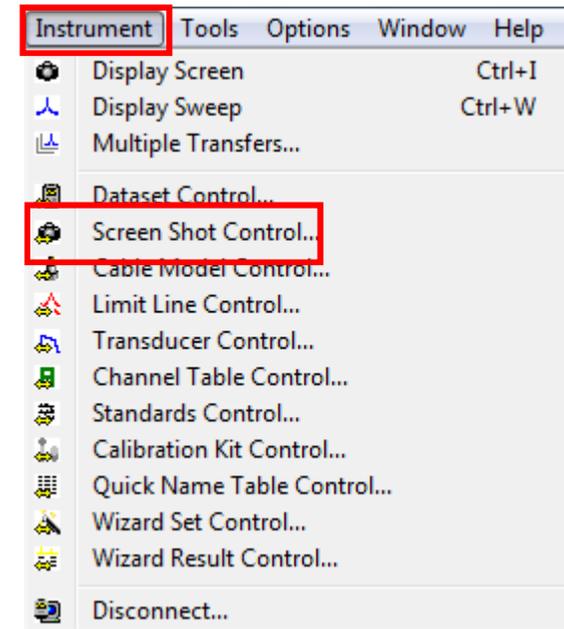
-ZVH内データをPCへ移行(Screen Shots(測定画像))



ZVHView画面内のをクリックするか、“Instrument”→“Screen Shot Control”を選択すると画面内に“Screen Shot control”の画面が立ち上がります。



Screen Shot controlの画面

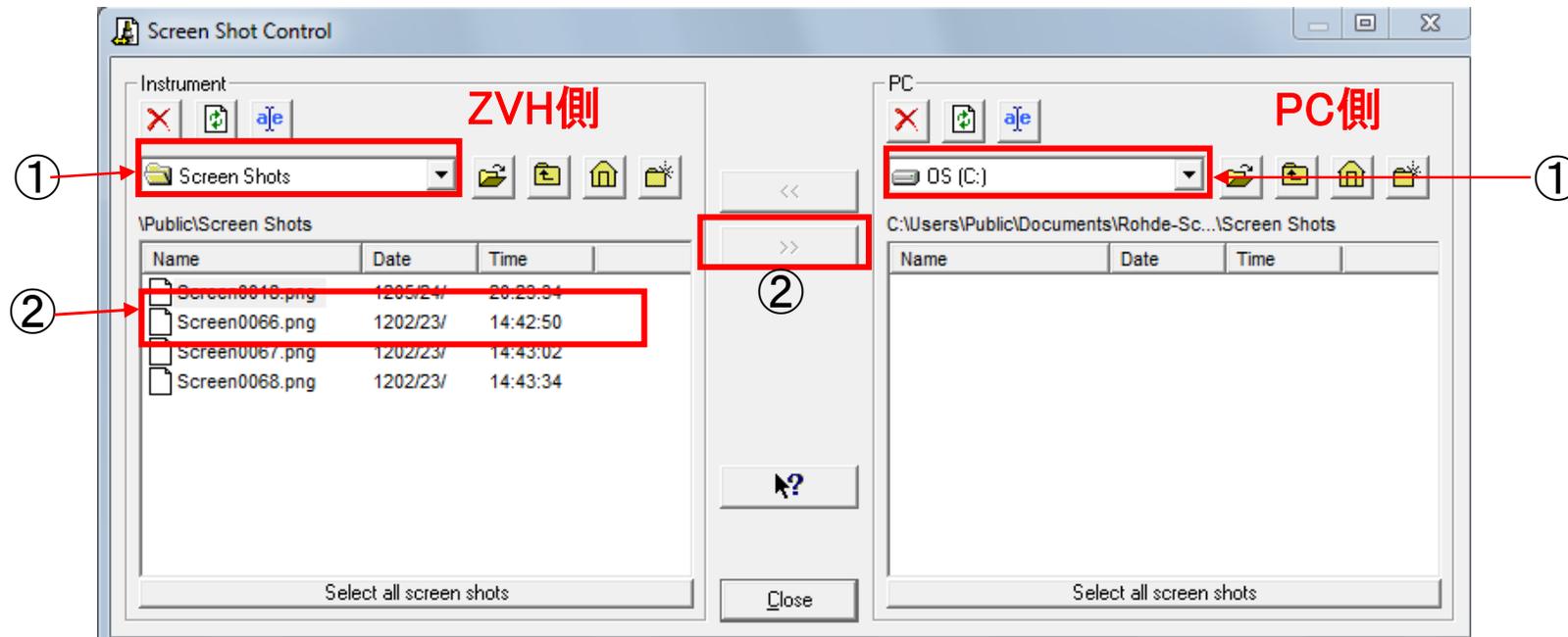




3.1 ZVHメモリ内のデータ転送

-ZVH内データをPCへ移行(Screen Shots(測定画像))

- ① ZVHメモリ内のフォルダとPCコピー先のフォルダを選択します。
- ② ZVHメモリ内のファイルを選択し“>>”を押します。
そうするとZVH内のファイルをPC内に移行することができます。

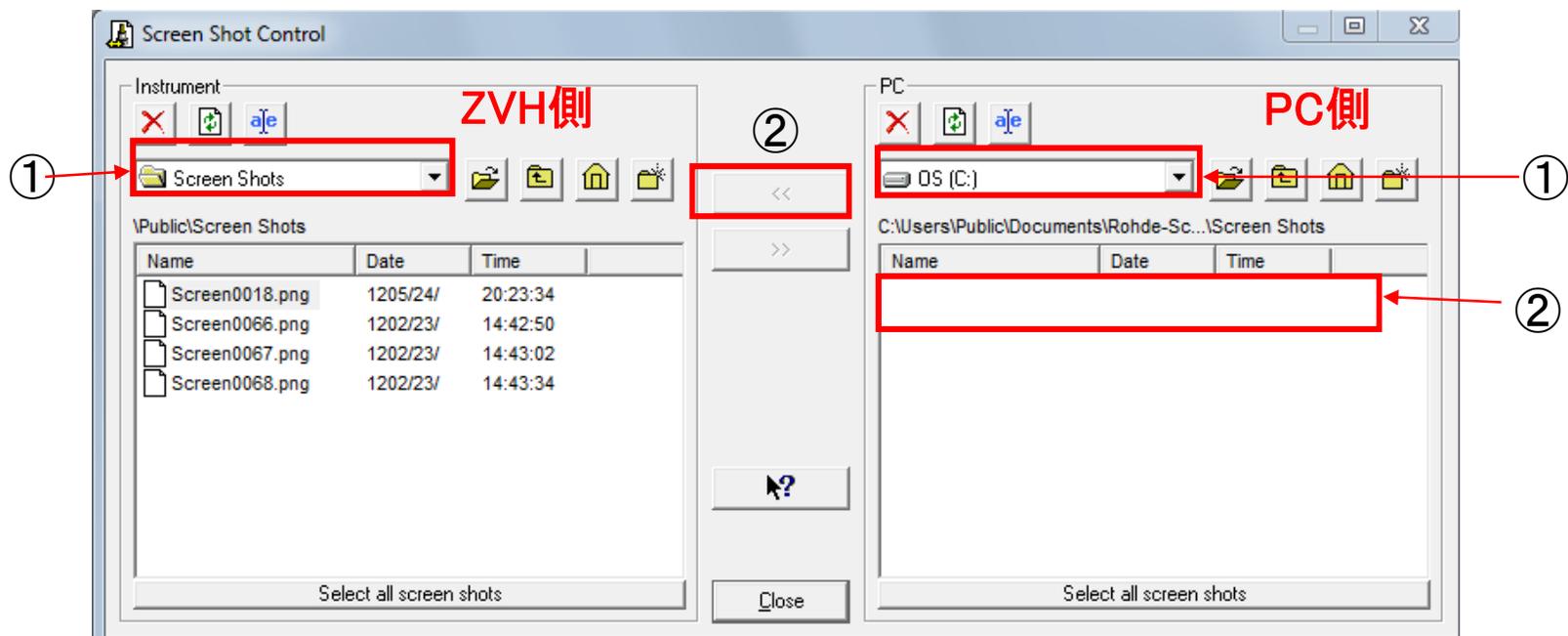




3.2 PC内データをZVHへ転送

-PCデータをZVHへ移行

- ①PC内のフォルダとZVHコピー先のフォルダを選択します。
- ②PC内のファイルを選択し“<<”を押します。
そうするとPC内のデータをZVHに移行することができます。

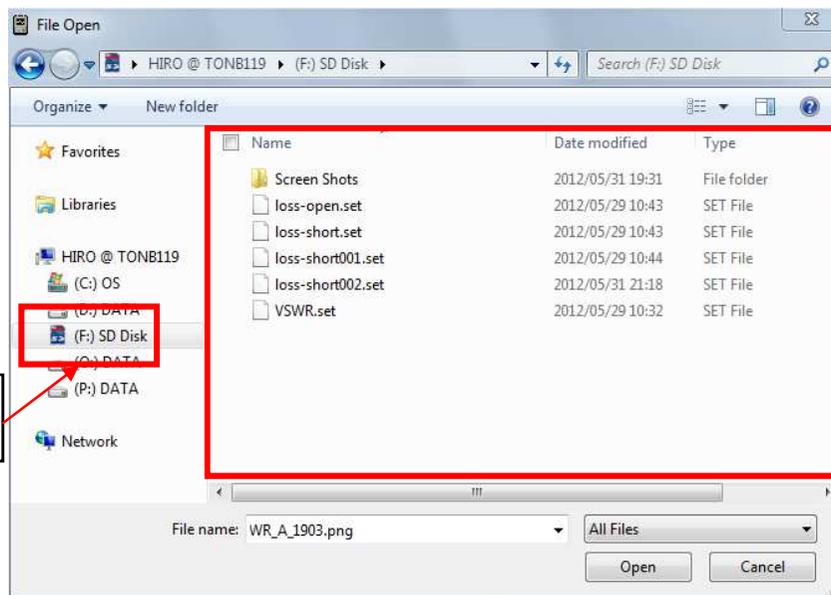




3.2 データ転送(SDカード)

-SDカード内のデータ出力(Dataset(測定画面))

ZVHView画面内の  をクリックするか、“File”→“Open”→SDカードを選択すると画面内にSDカードに保存されたデータを開くことができます。



SDカード内の
ファイル

SDカードの
ディレクトリ

SDカード内のファイル“* *.set”
のファイル名が測定画面のファイル
になります。

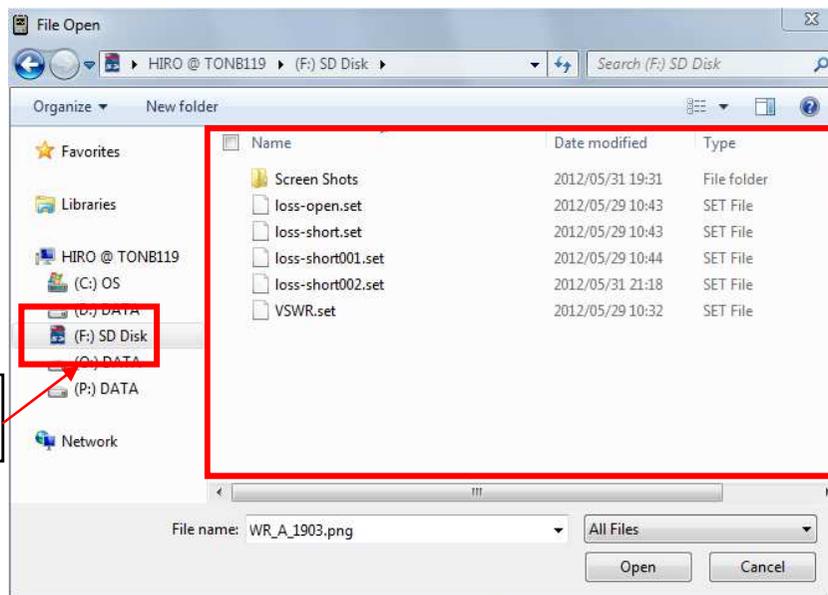
あらかじめ“Datasets”のフォルダを作成
すると事務処理が簡素化されます。



3.2 データ転送(SDカード)

-SDカード内のデータ出力(Screen Shot(測定画像))

ZVHView画面内のをクリックするか、“File”→“Open”→SDカードを選択すると画面内にSDカードに保存されたデータを開くことができます。



SDカードのディレクトリ

SDカード内のファイル

SDカード内のファイル“*.png”のファイル名が測定画面のファイルになります。

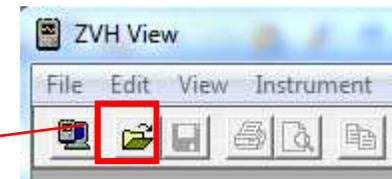
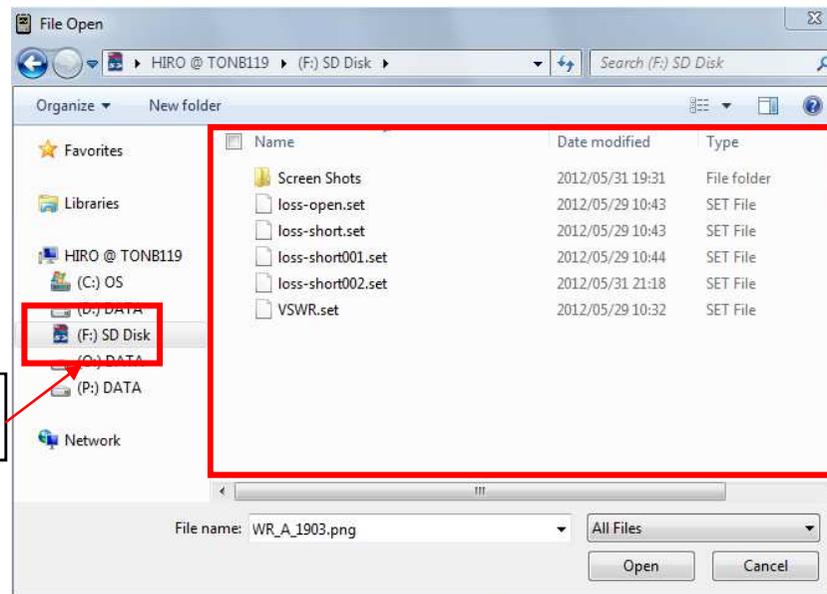
あらかじめ“Screen Shot”のフォルダを作成すると事務処理が簡素化されます。



4.1 取得データの操作

-測定画面 (マーカ機能)

ZVHView画面内の  をクリックするか、“File”→“Open”→SDカードを選択すると画面内にSDカードに保存されたデータを開くことができます。



SDカードのディレクトリ

SDカード内のファイル

SDカード内のファイル“*.set”のファイル名が測定画面のファイルになります。

あらかじめ“Datasets”のフォルダを作成すると事務処理が簡素化されます。



4.1 取得データの操作(マーカ機能)

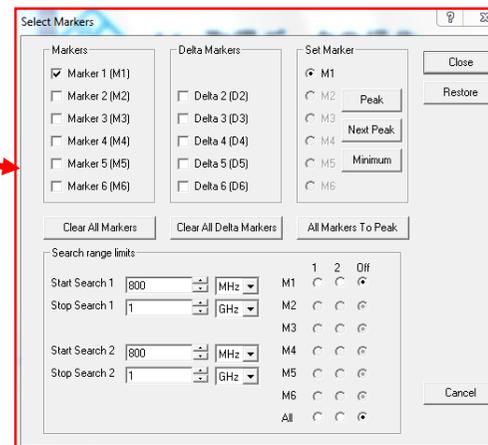
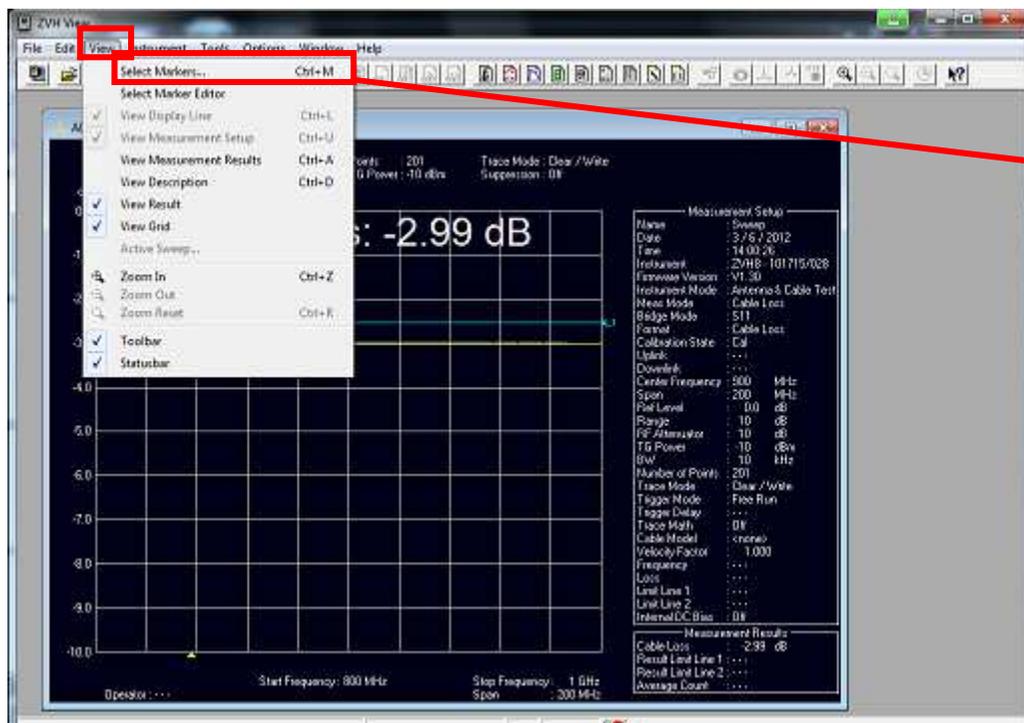
-測定画面(マーカ設定)(Marker Editor)

ZVHView画面内の“View”をクリックしプルダウンし、

“Select Marker”をクリックします。

そうするとマーカ1～6までの設定が行え測定画面に反映されます。

マーカごとに“マーカMAX”、“マーカMIN”、“周波数”ができます。



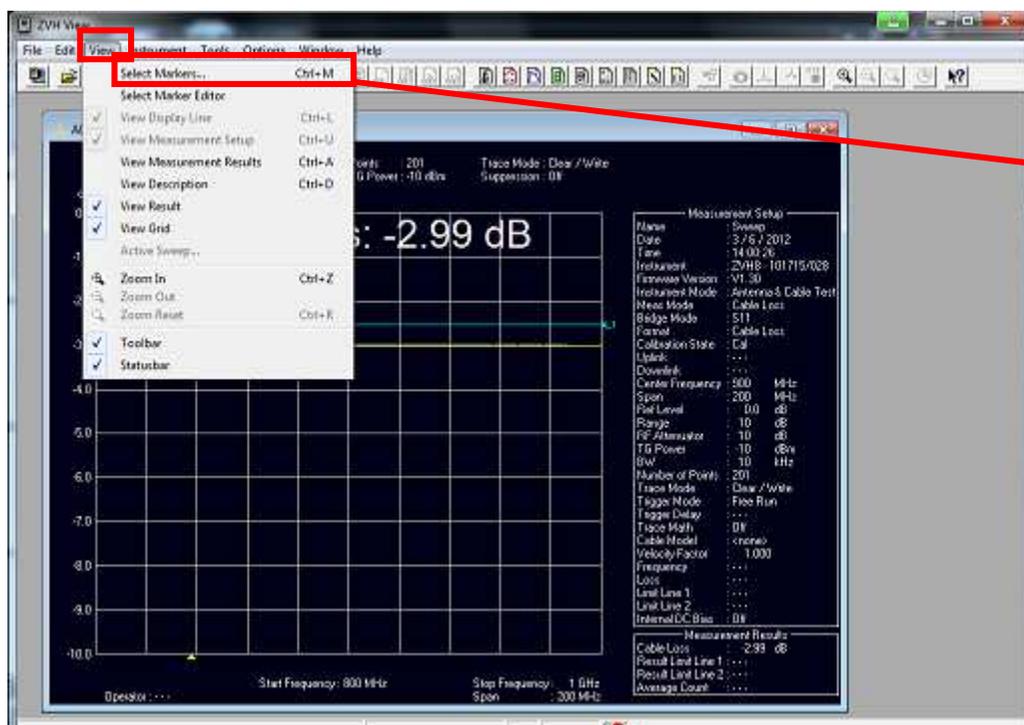
マーカを直接マウスでドラックして
マーカ位置を移動することもできます。



4.1 取得データの操作(マーカ機能)

-測定画面(マーカ機能)(Select Marker Editor)

ZVHiew画面内の“View”をクリックしプルダウンし、“Select Marker Editor”をクリックします。
あらかじめ設定してあったマーカの周波数設定がPCより行えます。



マーカの
周波数設定

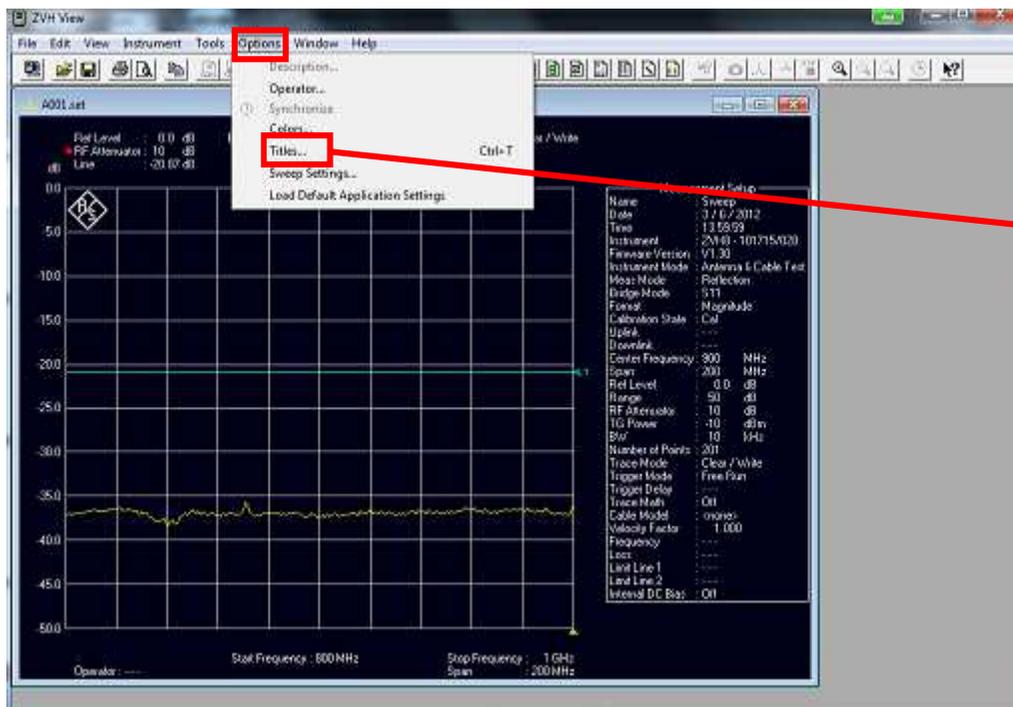
マーカを直接マウスでドラックして
マーカ位置を移動することもできます。



4.2 取得データの操作

-測定画面 (ファイル名/タイトル変更)

ZVHview画面内の“View”をクリックしプルダウンし、“Select Marker Editor”をクリックします。
あらかじめ設定してあったマーカの周波数設定がPCより行えます。



Options Sweep Titles dialog box (Before Change). The 'Window Title' field contains 'A001.set' and the 'Trace Name' field contains 'Sweep'. Both fields are highlighted with red boxes. The dialog has 'Close' and 'Cancel' buttons.

変更前

Options Sweep Titles dialog box (After Change). The 'Window Title' field contains 'Rohde001.set' and the 'Trace Name' field contains 'Cable_loss_1m'. Both fields are highlighted with red boxes. The dialog has 'Close' and 'Cancel' buttons.

変更後



4.2 取得データの操作

-測定画面 (ファイル名/タイトル変更)

タイトル名の変更

Measurement Setup	
Name	Sweep
Date	: 3/5/2012
Time	: 13:59:59
Instrument	: ZVH8 - 101715/028
Firmware Version	: V1.30
Instrument Mode	: Antenna & Cable Test
Meas Mode	: Reflection
Bridge Mode	: S11
Format	: Magnitude
Calibration State	: Cal
Uplink	: ---
Downlink	: ---
Center Frequency	: 900 MHz
Span	: 200 MHz
Ref Level	: 0.0 dB
Range	: 50 dB
RF Attenuator	: 10 dB
TG Power	: -10 dBm
BW	: 10 kHz
Number of Points	: 201
Trace Mode	: Clear / Write
Trigger Mode	: Free Run
Trigger Delay	: ---
Trace Math	: Off
Cable Model	: <none>
Velocity Factor	: 1.000
Frequency	: ---
Loss	: ---
Limit Line 1	: ---
Limit Line 2	: ---
Internal DC Bias	: Off

変更前

Measurement Setup	
Name	Cable_loss_1m
Date	: 3/5/2012
Time	: 13:59:59
Instrument	: ZVH8 - 101715/028
Firmware Version	: V1.30
Instrument Mode	: Antenna & Cable Test
Meas Mode	: Reflection
Bridge Mode	: S11
Format	: Magnitude
Calibration State	: Cal
Uplink	: ---
Downlink	: ---
Center Frequency	: 900 MHz
Span	: 200 MHz
Ref Level	: 0.0 dB
Range	: 50 dB
RF Attenuator	: 10 dB
TG Power	: -10 dBm
BW	: 10 kHz
Number of Points	: 201
Trace Mode	: Clear / Write
Trigger Mode	: Free Run
Trigger Delay	: ---
Trace Math	: Off
Cable Model	: <none>
Velocity Factor	: 1.000
Frequency	: ---
Loss	: ---
Limit Line 1	: ---
Limit Line 2	: ---
Internal DC Bias	: Off

変更後



4.3 取得データの操作

-測定画面 からPNG画面に変更

測定画面をZVHViewで変更した後、測定結果の画面をPNG画面に変更します。

画面内“File”をプルダウンし、“Save as”をおします。

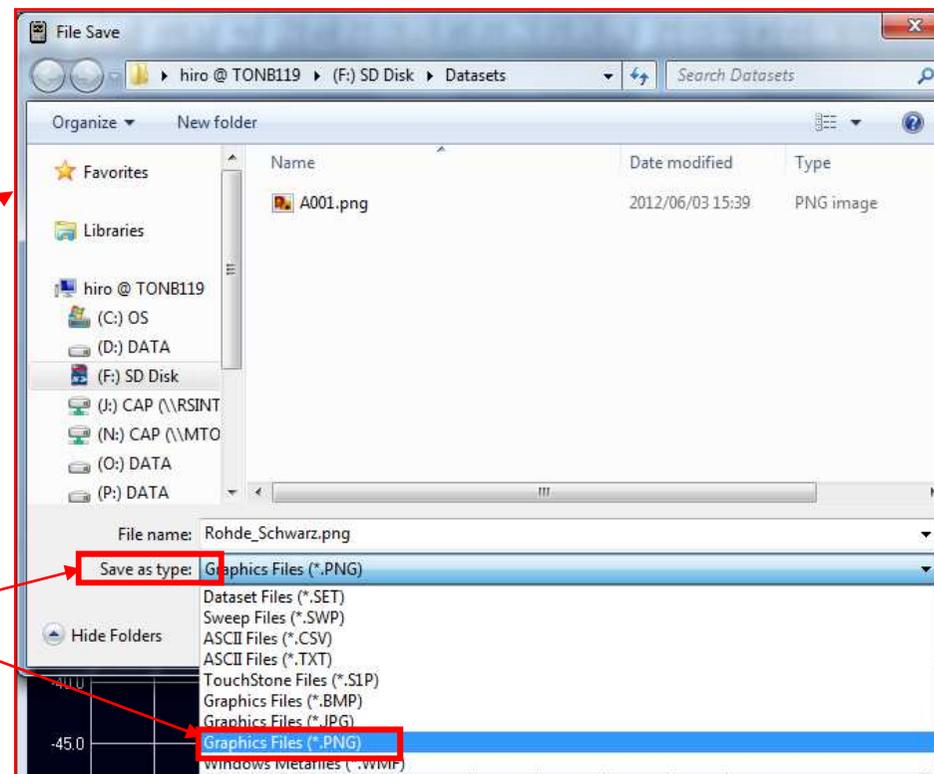
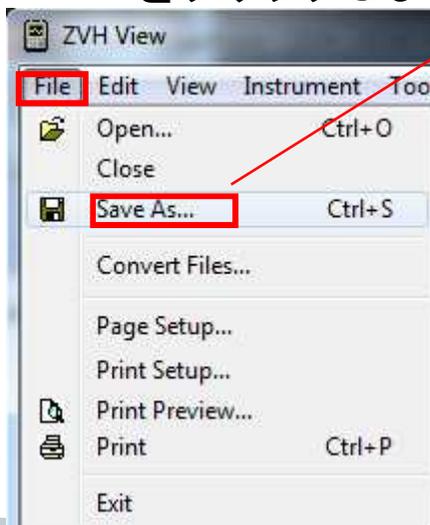
画面が立ち上がってきますので

“Save as type”を

“Graphics Files(*.PNG)”

を選択し、ファイル名をつけて

“SAVE”をクリックします。



Save as type
の選択

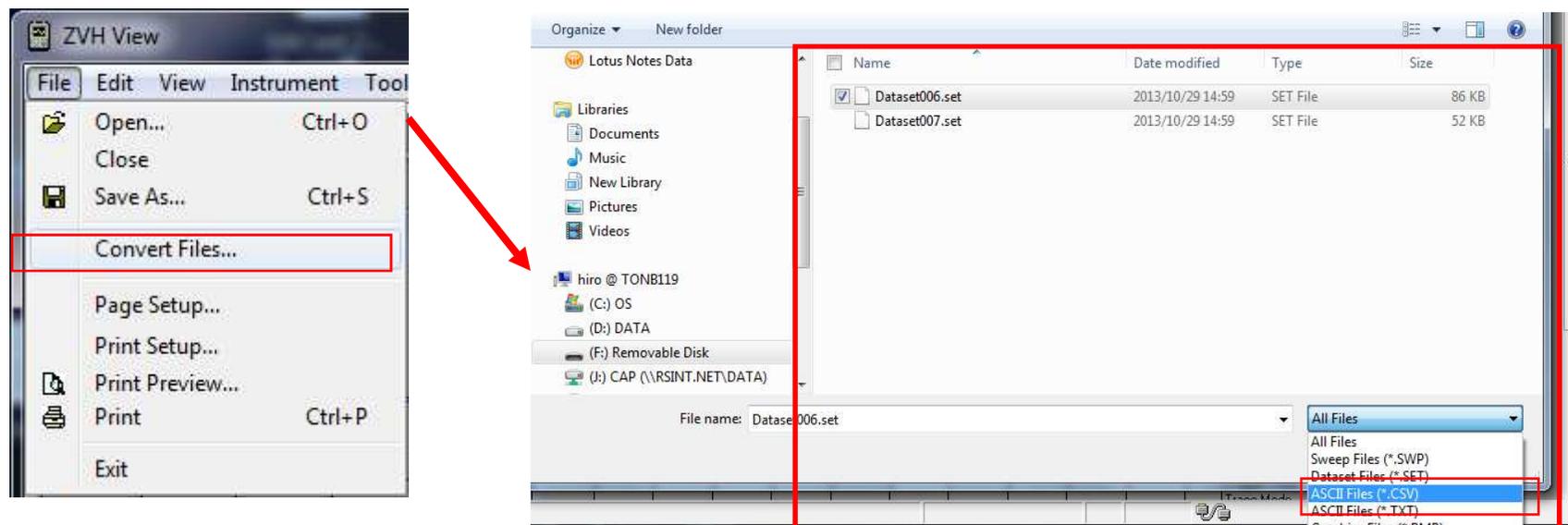


5. 測定データを数値データへ変換

- “.set”ファイルを“CSV”データへ変換

ZVHでは数値データでの取得は行えない仕様になっています。測定を行い取得したデータ“.set”ファイルをZVHViewを使用して数値データ“.csv”データへ変換することができます。

“File”→“Convert Files…”データ変換を行いたいファイルのフォルダを選択します。変換したいデータを選択し、画面右下のファイル形式を“ASCII File(*.csv)”にします。その後右下の“OPEN”をクリックします。



保存された測定データ



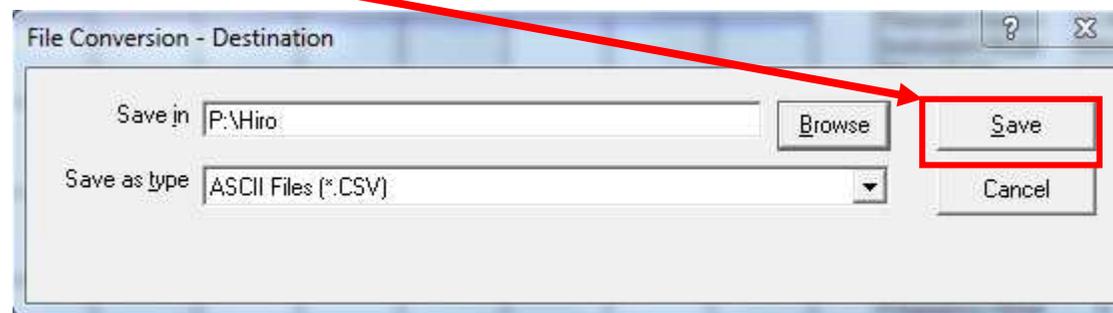
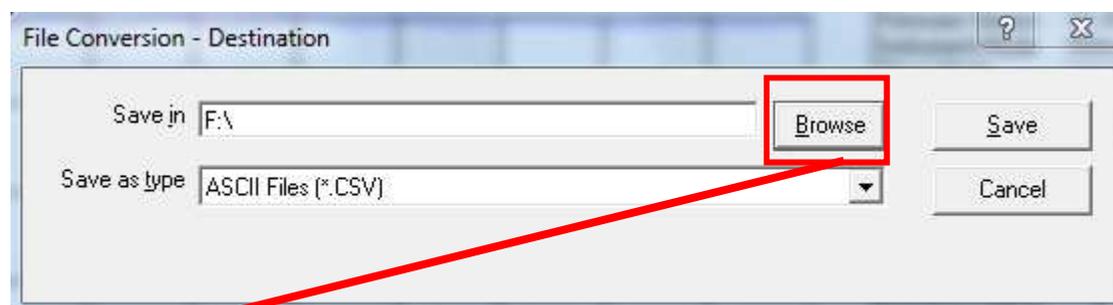
5. 測定データを数値データへ変換

- “.set”ファイルを“CSV”データへ変換

“File Conversion – Destination”が開きますので“Browse”をクリックし保存先を指定し、“Save”を押します。
これで変換が完了です。



保存先フォルダ





6 クイック・ネーミングの設定

-クイックネーミング(Quick Naming)の作成

PCよりクイックネーミングの作成が行えます。

データの転送方法は3.2を参照してください。

- ①ファイル名を作成します。(この名前がファイル名になります。)
- ②赤枠内の単語を入力します。
- ③“SAVE”を押し、保存先を指定し、“OK”を押します。
これでクイックネーミングの作成が行えます。

①

②

フォルダを指定

入力完了

Name	IL	PHS	UL	800M	850M
A	IL	PHS	UL	800M	850M
B	RL	PDC	DL	820M	860M
C	VSWR	FOMA		830M	870M
D	cable_loss	CDMA		840M	880M
		LTE		850M	890M
					900M